

令和8年度（2026年度）第1期募集

大学院総合学術研究科 修士課程入学者選抜試験 試験科目「専門英語」

解答例

問1

設問1)

第一の理論的視点として、ストレス対処モデル (Lazarus, 1999) が挙げられる。ストレス対処モデルでは、個人がストレスを管理するために様々な行動 (対処) をとることが主張されている。厳しい子育てを経験する子どもにとって、過度なスクリーン利用は感情的苦痛を軽減する対処メカニズムとして機能する可能性がある。

第二の理論的視点として、自己決定理論 (Deci & Ryan, 2000) が挙げられる。自己決定理論では、子どもが自律性、有能感、帰属感という基本的心理的欲求を持つことが示唆されている。厳しい子育てはこれらの欲求を阻害し、子どもが制御感や有能感を得る手段としてスクリーンに依存する結果を招く可能性がある。

設問2)

mediator (媒介変数) : 独立変数と従属変数の間にあって、両者をつなぐ変数

moderator (調整変数) : 独立変数と従属変数の関係が、その変数の存在によって変化する場合の変数

設問3)

マインドフルな子育ては、厳しい子育てと親子関係の質との関連を調節する。マインドフルな子育てが高まるにつれ、厳しい子育てと親子関係の質との間の負の関連は次第に弱まり、ひいては、子どものスクリーンタイムの時間も少なくなる。

問 2

設問 1)

「Parentification」(親役割の逆転)とは、子どもが養育者に対して親のような役割を担い、発達段階に不相応な責任を引き受けることを指す。こうした幼少期の体験は、成人後の恋愛関係においてパートナーに対して親役割を担う傾向につながり、関係満足度の低下を招く可能性があると考えられている。

設問 2)

Dr. Kate Balestrieri は、パートナーの関係において一方が「親」役割、他方が「子ども」役割に固定化されると、以下の 2 点が生じると述べている。

- **性欲の著しい低下**：過剰な役割負担による慢性的疲労・燃え尽き・パートナーへの恨みが、性欲を大きく損なう。
- **親密性・欲求の低下**：パートナーの日常管理を一手に引き受ける状況が葛藤や緊張を生み、親密さや欲求をさらに低下させる。

設問 3)

本文の主張の強みとしては、専門家(博士号保持者)による執筆、明確な概念定義、および近年の研究への言及が挙げられる。一方、限界としては、引用研究が単一かつ対象が限定的(成人女性のみ)であること、自己報告データへの依拠、そして掲載媒体が一般向けの Web 媒体であり学術的厳密さに欠ける点がある。

これらを踏まえると、筆者の主張を全面的に受け入れるのは慎重であるべきで、過度な一般化を避けつつ、個別の状況への適用には追加情報の収集や専門家への相談が望ましい。